

事務連絡
平成 21 年 11 月 11 日

関係各位

大阪府病害虫防除所長

水稻の「縞葉枯病」に注意しましょう

本病は全国的に発生が増加しており、今年近畿では和歌山県で注意報が発令された。府内の縞葉枯病は昨年から散見されるようになり、今年 8 月の定点調査では、発病株率が 1.47% とやや高くなった。

本病は本田初期に発生するケースが多く、新葉が細くなって巻いたまま垂れ下がって枯れ上がり、その症状から「ゆうれい病」とも呼ばれている。ヒメトビウンカのウィルス保毒は、老齢幼虫及び成虫によって起こり、経卵伝染する。そのため、刈り株から生じたひこばえにより保毒虫率が増加し、次年度の発生が多くなることが懸念される。

そのため、収穫後できるだけ早く耕うんし、ひこばえの発生を防ぐとともに、冬～春に畦畔の雑草を刈り取り、ヒメトビウンカの越冬密度を下げる等の取組が有効である。

以下に縞葉枯病の後期感染症状及びひこばえの罹病状況等について説明しているので参考にされたい。

(参考)

○ 10 月に堺市で見られた症状は、水田の周辺部を中心に、草丈が低く、葉の一部が黄色くなっているものの、株は枯れず、穂が出すくみ状となっていた。これは、縞葉枯病の後期感染（幼穂形成期頃の感染）であると考えられた。後期感染を確認したのは府内初である。検定には抗体感作高比重ラテックス液を用いた。



○ 11月に和泉市で見られた「ひこばえ」の罹病状況を下記写真に示した。
また、ひこばえに向けて60回網振りし、得られたヒメトビウンカ成虫10頭を抗体感作高
比重ラテックス液を用いてウイルス検定したところ、1頭が陽性反応を示した。
府内において陽性反応を示したのはここ5年間で初めてである。



△葉が細くなって巻いたまま垂れ下がっている。このような症状を示したひこばえがあれば要注意。

◎防除薬剤については、

- Web版大阪府病害虫防除指針 (<http://www.jpnpn.ne.jp/osaka>)
- 農林水産消費安全技術センター 農薬登録情報検索システム
(<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm001.html>)

にて確認してください。